

## 「言葉」

日高川町立丹生中学校 2年 山本 陽太

ある日、僕は野球の練習試合で、投げて打っても少しも結果が出ず、しょぼりしながら帰っていました。そんな時、近所のおばあさんが、

「さようなら」

と声をかけてくれました。僕も「さようなら」と返すと、なぜか心が軽くなって、もやもやした気持ちがとれたような気がしました。「次こそは」という思いにもなれました。

大会前には、学校へ向かう途中、おばあさんに、

「頑張れ」

と応援してもらいました。この温かい励ましの言葉が心に響いて、思わず、

「ありがとうございます。頑張ります」

と返しました。この時、僕はこの一言に力をもらえたように思います。相手にとっては、普通の一言だけれども、自分にとっては気持ちが変わる、心を動かされる挨拶でした。

僕が小学5年生の時、弟とキャッチボールをしていました。弟は、僕が強く投げたボールをとることができませんでした。

「そんなもとれんのか、しっかりとれよ。」

ときつく言ってしまう、弟を泣かせてしまいました。その時、僕は悔しそうに泣いていた弟を見て、何気ないほんの一言で人を傷つけ悲しませてしまうということを実感しました。

以前僕は、父に野球を指導してもらったことがあります。父は、一言

「下半身をしっかりと使え。」

とだけ言いました。この言葉通りに自分なりにプレーをしてみると、安定感

のあるピッチングやバッティングが少しずつできるようになったのです。また、最近ある野球選手がテレビで「バッティングの時は、頭を動かさずに打っている」と言っていました。試合で試してみると、3打席目にホームランを打つことができました。その後、僕は練習でもこの言葉を意識するようになりました。

これらの経験を通して、言葉には一言で気持ちを変えさせるという力があることを知りました。しんどい時、つらい時に「言葉の力」を意識して、自分や相手に向けて言葉を発することができるようになりたいです。人を励まし、元気にさせる温かい挨拶ができる、人を傷つける一言とそうでない一言を区別できる、そういう人に僕はなりたいと思います。

僕の夢は、野球選手になることです。指導してくれる人からもらう言葉や自分が周囲にかける一言を意識して行動に移す。こういうところから始めると、人生は大きく変わると思います。

話すときや聞くとき、言葉をどう行動に移せるかを考える。日頃から、会った人と元気を分けあえるような挨拶を交わす。そうすれば、「言葉の力」で人を変えられると思います。人と人々が支え合ってこそ、社会全体を明るく、よりよくできるのではないかと思います。

僕はこれからつらさを抱えている人をなくしていく、周りを良い気持ちにさせていく存在になりたいです。気持ちをすっきりさせる挨拶で、みんなが一日を楽しく過ごせるように。

「おはようございます。」と。